

ビオラ ソルベ™・シリーズ

最大の花色ラインをもった、F₁ ビオラの定番品種

- ソルベは充実した基本色とユニーク系との幅のある花色を取り揃えた最も彩りの豊富なシリーズです
- 雑種強勢の強健さと優れた適応能力が、環境や気候の異なる世界中の様々な土地で実際の栽培を通じて実証されてきました
- ソルベは、揃いのよい早生タイプで、温度の高い条件でも極端な徒長が発生しにくい品種です
- ソルベは厳しい降雪地でも越冬し、また非降雪地では当然、秋からそのまま春まで花をご覧いただけます

本品種の学名: *Viola x wittrockiana*
種子粒数: 700-1,100 粒/グラム

発芽ステージ

プラグトレイのサイズ

406 穴が最適です。仕上がりにまで約 5 週を要します

培地

水はけがよく、新しく衛生的な培地を用い、土壌 pH5.4-5.8 を維持しましょう。あまり初期養分値(元肥)の高い培地は用いず、育苗期における伸長を防ぐ上でも、リンの値をできるだけ低く抑えます

播種

粗めのパーミキュライト等で、深すぎず浅すぎない深さで覆土します。最良の発芽条件を作るため、しっかり覆土して種子を囲み、湿度の高い環境を維持します。ベンチで発芽させる場合は 3,4 日です。発芽チャンバーを用いた方が高い歩留が期待できます

理想的な発芽パフォーマンスを実現するため、培地の水分をなるべく高く維持します。これは表面がぬれて光るくらいを目安にして、トレイの底から流出しない程度、つまり指先で少し表面を触れて満遍なく浸透している状態が確認できれば適量です。苗の徒長を防ぐため、育苗温度が 21°C を超えないよう注意しましょう

以下は各ステージの大まかな期間です

| | |
|---------|------|
| ステージ 2: | 10 日 |
| ステージ 3: | 14 日 |
| ステージ 4: | 7 日 |

温度

| | | |
|---------|------------|---------|
| 発芽温度: | 20°C | |
| ステージ 2: | 昼間 18-21°C | 夜間 15°C |
| ステージ 3: | 昼間 18°C | 夜間 15°C |
| ステージ 4: | 昼間 15°C | 夜間 13°C |

かん水

ステージ 3 に入ってから、苗の活着が確認できてから培地の水分の量を減らしてドライな管理へ。ステージ 4 では、いわゆるウェット・ドライを上手く調整して、葉色を健康に保ち、同時に苗の軟化を回避します

光(照度)条件

発芽期においては、電照等による補光は不要です。30,000(3,000f.c.)ルクスを上限で管理すると、状態のよい苗に仕上がるでしょう

湿度

相対湿度 95-97%を維持します

肥料

施肥はステージ 3 から開始します。週 2 回、14-0-14 と 20-10-20 の肥料を交互に 50ppm(N)の倍率で pH バランスを保ちながら与え、さらにカルシウムを適宜投与します。1 週間経過後に窒素濃度を 100ppm にまで上げて、この肥料設計をポット上げ前まで続けます

EC 値*と pH は、ステージ 2 から 4 まで 0.5-0.75 mmhos/cm と、5.4-5.8 の範囲を維持します。EC 値*と pH の最適値は 1.0 と 5.6-5.8 です。もしステージ 4 において pH の値が 6 を超えるような場合は、水 1 リットルに硫化鉄 1.2 グラムを溶かした水溶液で中和処理します。また葉焼けしないように、葉の部分をよく水で洗い流します。6 以上の pH になると、他にもホウ素欠乏を起こしたり、細菌感染による根腐れ病等を誘発したりする可能性があるため、土壌 pH のチェックは十分注意しましょう

矮化処理剤(PGR)

ビオラはもともとコンパクトな、徒長しにくい植物です。プラグの段階では、A-レストの 10ppm の葉面散布を推奨しています。最初の本葉が完全に展開した時点で(だいたい 3 週齢くらい)、矮化剤を与えます。通常はこの 1 回で十分だと思われます。また生育が早いようであれば、3 週目よりも数日早く与えることも可能です

Note: ポット上げ適期を逸さないように注意しましょう。逸するとプラグの段階で花芽が上がってきます。このような株は当然、出荷鉢では株張りせず、商品性も期待できなくなる可能性があります

ポット上げから出荷まで

コンテナ・サイズ

9-10.5cm ポット、あるいはカットバック

用土(培地)

ビオラは、培地に含まれる元肥の内容がその後の生育に影響します。養分量が低すぎると株が十分に育ちきれないうちに花が上がってしまい、商品価値が低下してしまいます。バランスよく微量元素が含有されている、培地を用いることで、葉と株のバランスが整った草姿に仕上がります

温度

施設栽培では、昼間温度を 15℃、夜間温度を 10-13℃に設定しましょう

光(照度)条件

電照等による補光は不要です

肥料

施設栽培においては、移植後 1 週してから週 1 度 150ppm の倍率で肥料を与えます。露地で管理する場合は、もう少し頻りに施肥します。移植後は一貫して、EC 値*を 1.5、土壌 pH を 5.6-5.8 の範囲で維持しましょう。肥料は pH の値を保つため、20-10-20 のタイプと、15-5-15 のようなベーシックな種類とを交互に与えます。もし培地の pH が 6.0 を超えるような場合は、葉焼けしないように水 1 リットルに硫化鉄 1.2 グラムを溶かした水溶液で中和処理して、さらに水で葉の部分をよく洗い流します

矮化処理剤(PGR)

ビオラの矮化剤使用に関しては、夜間と昼間の温度条件や生産場所、また作型に大きく影響されることがあります。昼間/夜間の温度が最適範囲(昼:16-20℃、夜:11-15℃)で、つまり温度がさほど高くないのであれば、移植後 1 週で 10-20ppm の A-レストを葉面に一度、その後 7-10 日において同倍率でさらに 2,3 回行えば十分な効果が期待できます。(昼間/夜間ともに)気温の高い条件化では B-ナイン、5,000ppm とサイコセル 1,000ppm、あるいは B-ナイン、5,000ppm と A-レスト、10ppm のどちらかのタンクミックスの使用で効果があります。どちらも葉面散布で、やはり移植後 1 週から開始して、その後 7-10 日において同倍率でさらに 2,3 回行うことで効果があります。実際、ビオラ栽培では温度が最も重要な生長-抑制要因です。たとえば春出しのビオラを温度の低い条件で生産するのであれば、矮化剤は不要あるいは最小限の使用で生産が可能です

質の良いビオラに仕上げるには、(風雨の懸念さえなければ)ポット上げ後 1 週たったら露地や無蓋ハウスで作ることもひとつの方法です。このように、戸外で生産する場合の理想的な温度は、最初の 2,3 週は昼間温度 15-21℃、夜間温度 11-15℃の範囲です。ビオラは低温に強い植物なので、夜の気温が 5℃まで下がってもとくに大きな問題はありません

栽培のスケジュール

| | |
|---------------------------|------------------------|
| 播種からポット上げ (406 穴トレイ使用) | 4 週 |
| ポット上げから出荷 (カットバック) | 3-5 週 (季節によって異なります) |
| 播種から出荷 (トータル期間) | 7-9 週 |

予想される一般的な障害について

害虫: プラグ生産ステージでは、ファンガスナッツ、ショーフライなどをしっかり殺虫駆除する必要があります。また、移植後はアブラムシやスリップス、ハダニ、ホワイトフライが害虫として問題になります

病気: 立ち枯れや黒斑病、葉上の種々の斑点病、ボトリティスなどが出やすい病気です

2005 年 9 月 改定

EC 値(電気伝導度)の数値は、北アメリカのピート主体の培地が算出要素になっているので、日本国内では適合し得ない場合もあります。

PanAmerican Seed

*および®は、Ball Horticultural Company のアメリカ合衆国、またその他国における登録商標です。

PanAmerican Seed Co.

622 Town Road, West Chicago, Illinois, USA 60185-2698
630 231-1400 Fax: 630 231-3609 www.panamseed.com

©2003 Ball Horticultural Company Printed in USA PAS03011
Originally issued as PAS03111 in USA, and under permission translated into Japanese and revised in 2005. Printed in Japan